

## 子どもの遊び場意見交換会 記録

日 時	2026年2月15日(日) 13:30~15:00
場 所	飯田わくわく広場

参加者:8名(オンライン5名)

### 市長:

お忙しい中ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。震災から2年が経ち、皆さんの思いにお応えするためにも復旧、復興を進めていかなければならないと考えている。

震災以降、児童・生徒が約3割減少している。子育て中の世帯が珠洲に住み続けたい、珠洲に戻ってきたいと思ってもらえることが必要である。北陸特有の天候のため11月から3月にかけては外で子どもたちが遊ぶことは難しい。屋内で子どもたちが思いっきり遊べる施設は子育て中の世帯から要望が多く、県内においても、もりのひみつきち、あめるんパーク、かほつくるなどが整備され、たくさんの人が訪れている。

珠洲で計画中的の子どもの遊び場について、忌憚のない意見をいただき、みなさんの思いを叶えられるような整備を進めたい。よろしく願います。

### 【資料説明】

計画概要、アンケート結果

### 【意見交換】

#### 参加者:

すごく多くの意見が出ていて、皆さんの熱意を感じた。その中で注目したのは「高校生がスタッフとして関わりたい」という意見であり、すごくいいなと思う。「あれをしたい」「これをしてほしい」「市としてはこういうものを提供したい」という思いがあっても、どうしても「人がいない」という問題が出てくると思う。そういう時に、高校生や大学生が運営側に関わってくれるのはすごく大事なことで、「あれしてほしい、これしてほしい」ではなく、「自分に何ができるのか」を考え運営に関わっていくことは、中高生にとって学びになり、社会に出ていく上でも、就職前にこのように社会と繋がるという点ですごくいいと思った。ぜひこのような仕組みを取り入れていただきたい。

#### 参加者:

私も同じところが気になった。普段、高校生の授業にお邪魔しているが、今の3年生でも4、5人くらいが「保育士になりたいから、そのような学校に進学する」と言っている。50人ちょっとしかいない学年でそれだけいるのは多い。高校生として関わりたいという気持ちは、すごく素敵だなと思っている。

もう一つ、意見を見て思ったのは、保護者も過ごしやすい場所、例えば休憩や食べるところがどうなるかわからないが、ガラス張りになっていて、外へ出ることができたり、子どもでも動かせるくらい自由に配置できたりするような空間デザインが望ましい。部屋を分けずに、ロビーのような形がよい。遊び場の左側のところに椅子がある今の配置計画は、すごくいいなと思う。部屋として区切られると、見えなくて、例えば中学生が溜まっていたら子どもは入りにくいとか、誰かが占領するみたいなことがあるかなと思ったので、休憩や食べる場所は開けている方がよいと思う。

**市長：**

ちなみにここの境目はどんな感じになるのか。ガラス張りなのか。

**設計事務所：**

細かいところはこれからだが、開放性の高い設計を考えている。今はまだ施設構成を考えている段階であり、仕切りをどうするかはこれから。開放性が高いと、一緒に来られた保護者も子どもたちの様子を見守れるし、音もダイレクトに伝わってくるため、一緒に見守ることもできると考えている。もしそこで勉強したいといった場合は、ロビーの形を変えるなど、作り方を変える必要があると思っている。

**参加者：**

椅子やテーブルであるが、例えば石川県立図書館では、すごく動かしやすいように工夫されており、子どもたちでレイアウトを変えられるため、その点は望ましく感じている。

**市長：**

私もそこは気になっている。ガラス張りにするのか、あるいはオープンにするとボールが飛んできて、飲んでいるコーヒーが倒れたりすることもあるのかなと思う。どうやって仕切るか気になるところだ。別の案で、椅子を並べて自習できるようなレイアウトもあるが、仕切って色々するというより、オープン的な感じの方がよいと思う。

**参加者：**

遊び場とつながっていない場所にもスペースがあり、そこは自習室としても使えそうだ。

**設計事務所：**

そのような用途にも使える計画を考えている。

**市長：**

多目的に使えるスペースになる。

**設計事務所：**

子育て支援のセミナーが開催されるなど、多目的に活用できるお部屋があってもよいと考え、配置案に入れている。

**参加者：**

そこは、できれば固定の椅子というより、自分で場所を作れるスペースであることが望ましい。

**設計事務所：**

参考にする。

**参加者：**

質問である。資料の1ページは小学生に対して要望を聞いたものだと思うが、未就学児の保護者、お子さんからのニーズは、13ページの間8でよいか。

**珠洲市:**

そうである。小学生には「遊び場にあつたらいいなと思うもの」を聞いているが、保育園児については保護者の方と一緒に考えてもらう形で聞いているので、保護者の回答に入っている。

**参加者:**

気になったのは、新設される施設と今ある施設の住み分けである。例えばキッズランドや健民体育館があると思うが、役割分担をどのようにするのか。

**市長:**

健民体育館は体育館であり、様々なスポーツが行われる。キッズランドとは住み分け、役割分担をしながら活用していきたい。

**参加者(オンライン):**

これはどのような種類の事業になるのか。市の事業なのか、義援金などが集まったためそれを活用するのか。

**珠洲市:**

これは市の事業である。

**参加者(オンライン):**

事業内容は理解した。私はかほく市に住んでいるが、クラブチームのような仕組みで、各所で生涯学習が結構行われている。今回の要望の中でもダンスを習いたいなどの声があったが、クラブチームのような仕組みでそのようなことを行うことは考えているのか。

**市長:**

珠洲市においては、震災前は公民館の活動が活発で、お話にあった活動は公民館で進めている。一部、震災で被災した公民館もあり、復旧を進めていたり新築したりするものもある。公民館活動は公民館活動として、これまで通り進められるところは進めていきたい。また、近くに健民体育館があり、その2階でも多少そのようなことができるスペースもある。役割分担の話もあったが、こちらについては主に子どもたちの遊び場ということで整備をしていきたい。

**参加者(オンライン):**

その住み分けがどうなっているのか疑問に感じた。地域ごとに単独で活動する際、子どもの数が少ないので活動が大きくできない課題がある。ここでやることの良さ、特徴をどのように出していくのかについて明確になるとよいと感じた。

**市長:**

ここは、主に子どもたちが自由に遊んでいただくことがメインになる。

**参加者(オンライン):**

市外から遊びに来ていただくことも考えていくのか。ボランティアで多くの方が来ている。それとも

市内の方にメインに使ってもらうことを考えていくのか。

**市長:**

市民の皆様、子どもたちの遊び場という形で整備していくが、市外からお越しいただくのは歓迎したい。ご利用いただければと思う。

**参加者(オンライン):**

他の自治体の例などで「こういう風にしたい」というイメージはあるのか。例えば小松市の航空プラザは子どもの遊び場としてすごく利用されている。

**市長:**

子どもたちにとって非常に楽しく魅力ある施設にしていきたいと思ってる。

**参加者(オンライン):**

入場料について質問がある。おそらく市民に対しては無償という形になるのではないかと予想しているが、市外の方が利用される際に入場料を取ることを考えているのか。

**市長:**

「かほっくる」は、市民は無料で市外の方は有料である。この施設に関しては、まだ明確に決めていない。できるだけ多くの方が利用しやすいように考えたい。また、市民の方かどうかを入場する時に証明してくださいというのも堅苦しいなという思いもある。できるだけフリーで入っていただける方がよいのではないかなと思う。明確な方針は決まっていないが、参加者の方でご意見があればお聞きしたい。

**参加者(オンライン):**

私も「かほっくる」は有料だったなと思い、確認したく質問した。持続性の点では、少額の入場料はあってもいいのかなと感じている。一方で、市長がおっしゃった通り「堅苦しき」が出てしまうのは良くないと思う。例えば市外に住むおじいちゃん、おばあちゃんが、珠洲市に住んでいるお孫さんを連れてきた時に、保護者からは入場料を取るのかなど、そのあたりが入りにくさの理由になってしまうのは良くないと思う。「すずっこ広場」のような開けた環境で、市外の方も交流できるような施設ができれば、皆さん来やすいし、それがあから珠洲に行きたいなと思えるようになれば、そこからまた経済がちょっとでも回ることも可能性として考えられる。すごく楽しみにしている。

**市長:**

ご指摘の通り、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんを連れてきた時に「珠洲市のおじいちゃん、おばあちゃんは無料やけど、市外のお孫さんだけ有料ね」みたいな感じは変だと感じる。色々と考えていきたい。

**参加者(オンライン):**

説明会を開いていただき、どんな施設になるか見ることができたのは非常にありがたく感じる。アンケート内容で色々変わってくると思うが、今後も継続的にこのような説明会の場所を設けてほしい。

**珠洲市:**

説明させていただいたように、保育園児、小学生の保護者や、小中学生からアイデアをいただいた。意見を踏まえて基本プランを取りまとめることになる。次に、この基本プランを珠洲市のホームページ上で公開し「パブリックコメント」という形で皆様のご意見を頂戴したい。パブリックコメントでいただいたアイデアやご意見を踏まえ、3月20日頃には最終的な基本プランを取りまとめたいと考えている。意見交換会は今回が最後になる。

**参加者(オンライン):**

珠洲市でこのような遊び場ができるということであるが、近隣市町の輪島市や能登町でも、このような遊び場ができる計画はあるのか。

**市長:**

報道などによると、輪島市では既に整備が行われ利用されている。ショッピングセンターの一部で、ボルダリングや遊べるスペースを整備したと聞いている。能登町や穴水では聞いていない。色々と動きがあるかもしれない。

**参加者(オンライン):**

奥能登全体で子どもの遊び場が少ないと感じているので、隣接市町の子どもたちも気軽に遊びに来れる場であったり、あるいは今後他の市町にできてくるのであれば、他とは違う「珠洲ならではの」遊び場になったりすればいいなと思った。

**市長:**

現時点でも市民図書館やラポルトなどに近隣の市町から大勢来ていただいている。有料無料の話もあるが、近隣の市町の方も気軽にお越しいただけるような場になればと思う。

**参加者(オンライン):**

たいへん楽しみにしている。

**参加者(オンライン):**

意見の中で「コワーキングスペースがあるとよい」というものがあつた。かほつくるにもコワーキングスペースがあり、すごく評判がよい。コワーキングスペースはあつたらよいと思う。

珠洲市内でも外浦の方はすごく遠いので、狼煙地区などに支援に入ったりすると「飯田まで行くのは遠すぎてあまり行かない」「休みの日ばかりや」という声も聞いたりする。遠いところの方をどうするのかなという点が気になった。

「3年はかかりすぎだ」という声があつたと思うが、2つ目の問題の解決も含めて「分館」みたいなものがあつたらいいのかなと思った。そのあたりも含めて整備されたらすごくいい施設になると思う。

**市長:**

なかなか「分館」の整備は難しいと思うが、子どもたちが遊べるスペースについては色々と考えていきたい。幸い大谷小中学校の体育館はそのまま使えるので、地域のみなさんに使ってもらっている。そのような点も含めて考えていきたい。私もできるだけ早く完成させたいと思っているので、同時並行で物事を進めるなど迅速に取り組んでいきたい。

### **参加者(オンライン):**

スズプレイパークの活動をしている。現時点でお話を聞いている限り、とてもいいなと思っている。ひとつ気になったのは、僕がいつも欲しいなと思っているのが、外でしかできない遊びを屋内でもできるようなものである。東日本大震災の時に福島遊び場で同じような声が上がって、屋内に砂場を作った。それだけでも随分違う。やり方次第では色々できるのかなと思ったので、そういうものも企画に入れてもらえるといいなと思う。

「すずっこ広場」とも連携しながら珠洲に何箇所か遊び場ができるといいなと思って活動しているが、やはりアクセスは重要。珠洲は移動が大変なので、移動式の遊び場をシステムとして作ってみてはかかが。提案させていただく。

また、ハード面で一点。遊具は犯罪が起きやすい場所にもなりうる。死角になるところで犯罪が起きないような作り方、取組み方を考えていただけると、よりよいものになるかと思う。

### **市長:**

予定している遊び場のすぐ近くには大きな体育館もあり、屋外の遊具のある遊び場、野々江総合公園もある。また市民図書館もすぐ近くである。読書や自習をしたいなら図書館、天気のいい時は外の公園で遊べる。北陸は11月から3月くらいまでは雪や雨がものすごく多いため、そういう時にこの屋内の遊び場を利用していただく形で、利用者が使い分けをしていただければよいと思う。安全管理については体制を整えていきたい。

### **参加者:**

小学生向けのスペースについて、アンケートでもボール遊びや走り回れる場所などのニーズがあるので、あまり巨大な遊具を置くよりは、「余白のある空間」を確保してもらい、来た人が自分の好きなように遊べるようなレイアウトがよいのではないかと思った。大きな遊具は話題性はあるが、何回も来ると飽きてしまう部分もあるのかなと思う。子どもが自分で余白の空間の中で、積み木など、あるものを組み合わせで自分の好きな遊びを創造できる場所が確保されるとよいと思う。

中高生が運営に関わるのは、ぜひ実現できるとよい。「自分たちが作る遊び場」という子どもたちの意識を醸成できるとよい。

体を使って遊ぶこと以外に、手を動かしたり机の上でお絵かきしたり、じっくり過ごせる空間もあるといいなと思った。全体のレイアウトにあった個室みたいな場所になるのかと思うが、そこにも保護者の方が目配りしやすいような作りだといいなと思った。

### **市長:**

色々なワークショップなど、多目的な空間を活用していけばいいのかなと思う。余白の部分については、確かに同じような遊具で遊ぶのも飽きることもあると思うので、市民図書館のキッズランドを使うなど、使い分けなども考えていければと思う。

### **参加者:**

意見を見ると、中高生がカラオケをしたい、プリクラを撮りたいという意見がある。公共施設にカラオケなんて適切じゃないと思う人もいるかもしれないが、カラオケルームを作るわけではなく「カラオケができる場所」がほしいということだと思う。例えば防音の効いた部屋があり、カラオケマシンがなくても、自分のスマホを持ってきて大きいスピーカーで友達と歌えるくらいのことが実現できればいいと思う。バンドの練習をしたり色んなことに使えたりするけれど、サービスとして提供するのではなく、

自分たちで工夫して実現できる場所だという考え方だ。そうすれば、サービスの消費者としてではなく、自分たちのまちで、自分たちで何かを実現できるんだという自信に繋がると思う。そういう視点で考えると、すごくいいアイデアだと思うので、その気持ちを尊重してうまく繋げていけるような運営をしていただければ最高だなと思う。

#### **市長：**

私も同じようなことを考えていた。このスペースの中でカラオケ専用のスペースを入れ込むのは難しいが、高校生は「市内にカラオケボックスがないよね」と気持ちもあると思う。今はトレーラーハウスのものもある。そんな形で実現できないか。プリクラはあれば楽しいと思う。プリクラくらい設置できるんじゃないか。「すずっこひろば」にプリクラを置くとか、色々と考えていきたいと思う。

ピースウィンズ・ジャパンの橋本さんに、本日はアドバイザーとして出席いただいている。コメント、アドバイスを頂きたい。

#### **橋本(アドバイザー、ピースウィンズ・ジャパン)：**

「すずっこひろば」を運営している。今日アンケート結果を改めて見て、高校生がスタッフとして関わるとするのは、今すぐできることじゃないかと思った。休日に、「すずっこひろば」のスタッフとして参加してもらいたい。今も大学生がボランティアで来てくれているが、そのような連携はこの施設ではなくともできるなど思っている。

この遊び場にどこまで機能を持たせるかは難しい判断が必要になるが、「すずっこひろば」に導入できることもあると思う。例えばカラオケ。半分をフリースペースにしているので、時間帯を区切ってカラオケに使ってもらうこともできる。お茶会用のカラオケの道具もあるので、すぐにできちゃうなど思っている。プリクラは機械を置くことはできるがアップデートが大切。いつまでも昔のままではいけない。その点に注意が必要だ。

3年という月日は、子供たちにとっては1年1年がとても大きいので長く感じる。それを「すずっこひろば」で解消しつつ、この施設に繋げていければなど思っている。運営の中で思うのは、やはり子どもたちが思いっきり遊べる場所が必要だということ。冬の間も、大人は室内で寒がってるが、子どもたちは汗をかきながら走り回っている。大人はどうしても「危ない、ダメ」と言いたくなるが、「ダメと言わない」「急に止めない」ということをスタッフに言っている。リスクは常にあるが、それを全部ゼロにしようと思うと何もできなくなる。大きな怪我は避けなければならないが、子どもたちがぶつかってしまってもよい。そういうことを体験しながら回避していく力を身につけてもらえるような場所作りが必要なのかななど思っている。

設計事務所の方々にも今の広場の作りを見ていただければと思う。イベントによって遊び方もどんどん変わっていくので、外の人を呼び込むという意味でも、そういう使い方ができるスペースがあるのは大切だと思う。駐車場が35台というのは厳しいかもしれない。

#### **市長：**

駐車場は健民体育館などと共用して運用したい。駐車場に出入りする車の安全、動線も気になる。この通りは結構混雑する。そのあたりもよくよく考えないと、事故が起きるのが一番怖い。車が子どもさんを跳ねるなんてことが絶対ないように配置を考えたい。

#### **参加者：**

珠洲の市外の人たちから「珠洲は色々意見を言えていいね」と言われることが多くあり、羨ましながら

れている。本当にこういう場所はあるってほしいと思うし、市の皆様にも意見を柔軟に受け止めていただければいいと思う。市民と一緒にこういう場所を作っていけるのが、すごくいい形だなと思う。

**ピースウィンズ・ジャパンスタッフ:**

余白のあるスペースの話があった。「すずっこひろば」では、子どもたちは走っている。鬼ごっこをしている。大人も子ども一緒になって、走り回れることがストレス発散の場になっているのかなと思う。子どもたちがフリーで遊べるスペース、何もないスペースというのは必要だと思う。

また、例えば4ヶ月の子と3歳の子を抱えているお母さんと、今のスペースと一緒に居ることができるかと考えてしまう。赤ちゃんが転がっている横で、活発な子が走り回っている。兄弟が一緒にお母さんと入れるスペースがあるといいなと感じた。

**市長:**

おそらく幼児向けのスペースの遊具は可動式のものを取り入れることもできると思うので、曜日によっては遊具を片付けて「今日は広い余白スペースが多い日ですよ」という取組も可能かと思う。

よりよい、楽しくて魅力ある施設になるように引き続き進めていきたい。できるだけ早く完成できるように取り組んでいきたいと思う。今後パブリックコメントなどもあるので、ご意見をいただきたい。どうぞ引き続きご協力をお願いします。

**事務局:**

今後の進め方について説明させていただく。本日いただいたご意見を踏まえ、まずは基本プランをまとめる。その後、珠洲市のホームページに公開し、パブリックコメントを実施する。パブリックコメントの実施は3月上旬頃を予定している。その意見をさらに踏まえ、3月中旬もしくは下旬頃に最終的な基本プランを取りまとめ、公表したい。パブリックコメントの実施や最終的な基本プラン公表の際には、珠洲市からお知らせするのでご協力いただきたい。

本日はありがとうございました。

以上